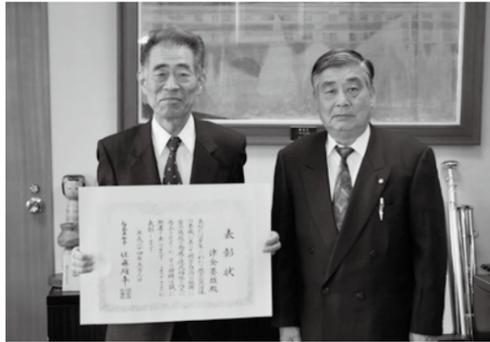




町勢伸展の功績をたたえる

前町長が地方自治功労者表彰受賞



受賞の報告に訪れた津金さん(左)

前町長の津金要雄さんは5月10日、町役場を訪れ、前後町長に県知事表彰の受賞を報告しました。

この表彰は、町議会議員や町長として25年以上にわたり本町の発展に尽くした功績が認められたもの。津金さんは「私一人の力ではなく、町民一人一人の力添えがあったからこそ受賞することができた。改めて町民の皆さんに感謝したい」と話しました。

前後町長は「長い間お疲れさまでした。これからも町勢伸展のためにご協力をお願いします」とねぎらいの言葉をかけました。

地域の皆さんと交流深める

猪苗代病院ふれあいの日イベント



薬剤指導や栄養指導を受ける来院者ら

町立猪苗代病院の「ふれあいの日」イベントは5月24日、同院で開かれました。

このイベントは、年に2回、町民との交流を目的に実施しているもので、同院では骨密度や血圧測定などのコーナーを設置し、来院者の健康状態をチェックしたほか、看護師、薬剤師や栄養士などが来院者の相談に応じました。当日はお茶やコーヒー、減塩味噌汁などが無料で振る舞われ、好評を博しました。

健康チェックを受けた篠原ミツさんは「スタッフが親身に相談に乗ってくれた。とてもためになった」と感想を述べました。

農業への理解深める機会に

アグリいな24年度事業がスタート



野菜作りの講習を受ける受講者ら

町地域農業活性化センター(アグリいな)の町民農園は5月13日、開園を迎えました。この農園は、農作物の栽培を通して、農業に対する理解を深めてもらおうと、町農林課が開設するもので、24年度は8組の利用者が野菜作りなどを楽しみます。

同日、24年度最初の野菜作り講習会も開催され、14人の受講者が講習を受けました。受講者の野矢仁幸さんは「昨年からの受講しているが、わかりやすく指導してくれるのでありがたい。とてもいい企画だと思うので、今後もぜひ続けてほしい」と感想を述べました。

一層深まる伊那市との交流

保科正之公ゆかりの高遠町を訪問



玉串をささげて拝礼する土屋教育長(右)

長野県の伊那市観光協会が主催する「名君保科正之公生誕401年祭」は4月29日、伊那市立高遠町歴史博物館および同市高遠町総合福祉センターで開催され、本町から19人が参加しました。

本町と伊那市の交流をさらに深めようと、猪苗代の偉人を考える会の江花俊和会長らが生誕祭の参加ツアーを企画、町民などから広く参加者を募集したものです。

ツアー初日の28日、参加者らは国宝の松本城や高遠城址、藩校進徳館などを見学した後、生誕祭に先立って開かれた交流会に参加。正之公の縁で集まった人たちとの交流を深めました。

約60人が出席した交流会では、本町と伊那市の友好の証として、白鳥孝伊那市長から江花会長と土屋重憲教育長に桜の苗木が贈呈されました。この桜は、伊那市で門外不出とされてきたタカトオコヒガンザクラで、正之公との縁が深い猪苗代町ならばと、特別に譲渡されたもの。昨年本町で開催された保科正之公生誕400年祭の記念に、正之公ゆかりの地の桜を植樹しようと、実行委員会が伊那市に譲渡を申し入れて実現したものです。

翌29日、参加者らは建福寺(保科家の菩提寺)を訪問した後、生誕401年祭に参加。神事では本町を代表して土屋教育長、関澤和人町議、佐藤正町観光協会会長らが玉串をささげて正之公の冥福を祈りました。その後の高遠町桜大学講座では福島県立博物館の阿部綾子学芸員が「保科正之と保科家」と題して講演。引き続き会津松平家第14代当主の松平保久さんと高遠藩内藤家第17代当主の内藤頼誼さんをお招きし、鼎談があり、参加者らは熱心に耳を傾けていました。

ツアーを終え、江花会長は「伊那市の皆さんにはとてもよくしていただき感激しました。そして、伊那市との交流をさらに深めることができました。正之公の大河ドラマ化に向け、今後も交流を密にしていきたいと思います」と抱負を述べました。



29日に開催された高遠町桜大学講座の様子



高遠城址公園のタカトオコヒガンザクラの前で記念写真

生誕祭前日の交流会で伊那市長から譲り受けた桜の苗木は5月3日、土津神社春季大祭に続いて執り行われた保科正之公生誕400年記念植樹祭において植樹されました。

会津松平家第14代当主の松平保久さんと前後公町長が同神社の鳥居近くに植樹。松平さんは「この桜がきっかけとなり、猪苗代町と伊那市との交流がより深まることを願う。立派な桜になってほしい」とあいさつ。前後町長は「正之公の縁で大変貴重な桜を譲り受けることができた。大きく成長してもらいたい」と話しました。



記念植樹する前後町長(左)と松平さん(右)